

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。次に、３番上田議員の質問を許可いたします。ご登壇を求めます。３番上田議員

上田議員／皆さん、こんにちは。登壇の許可をいただきましたので、これより、上田雄一の一般質問を始めます。今回も、武雄市の今後の方向性について質問します。今回２つ。一つ目に教育について、二つめまちづくりについて。教育については、ＩＣＴ教育と反転授業について。まちづくりは、道路行政についてと企業誘致について。平成２６年度に向けてということで。今回、改選を控えているということもありまして、喫緊に話を伺いたいところだけ。よろしくお願いします。

質問に入ります。１２月議会で反転授業という言葉だけが先行している、保護者への周知について、私の方は、全ての学校の方で質問をさせていただいたところで、各学校で説明会をきちんとやるべきではないか。という質問をさせていただいたところですね。その際の答弁としては全ての学校で実施するというところで、いろいろスケジュール的な答弁をお願いします。

これはですね、私の子供が通っている、小学校、御船が丘小学校の説明会の風景でございます。今の現状で、御船が丘小学校では実施されていましたが、他の学校での実施状況をお伺いしたい。よろしくお願いします

議長／代田教育監

代田教育監／ただいま、上田議員からから御指摘いただいた、本社説明会の日程ですが昨日の３月４日、火曜日、朝日小学校の説明会をもって、全１１校の保護者への説明会が終わりました。どの学校においても、非常に多くの保護者に参加いただき、不安の解消に少しは前進したと、思っています。以上です。

議長／３番 上田議員

上田議員／資料数が、記載してあります。これだいたい、保護者の世帯数の、資料数の何パーセントになるかのデータまで持ってますか。そこらへんを確認させてください。

議長／代田教育監

代田教育監／この資料数、おおよそ、保護者の参加予定数で学校から要望あったものですので、参加予定の全体として保護者帯数と、考えて良いと思います。

議長／３番 上田議員

上田議員／おおむね、たくさんの保護者のみなさんに説明会参加いただいてるのかなと、その場合にこれまでの質問でも再三、話ししましたが、保護者の声をどのように受け止めてるのか。というところを聞きたい。御船が丘小学校も含め、一番保護者の不安や疑問に思われているのは大きくわけ3つと思います。私が認識してる点はまず、1つ目は壊したり、紛失したときの責任とその後の対応をどうするのか、まず1点。それに、タブレット使用することによって、目への影響がどうなるのか、というの2つめ。そして3つめは、家庭での、ネット環境含む、本来の目的以外に、議会の場でも質問をさせていただきましたが、タブレットになんというか、タブレットにばかりに、特化していくこととかの利用の対応、そこらへんが一番保護者の中では多かったんじゃないかなあ、と思いますが、その辺は、保護者の声、どのように認識してるのか答弁をお願いします。

議長／代田教育監

代田教育監／ただいま、御指摘にありましたとおり、教育委員会のほうでも、保護者にたいして、タブレット型端末を使うことによる不安はなんですか、というアンケート調査を行っています。

大きく分けて3つです。一番多いのが、タブレットの破損、紛失した場合はどうするのか、2番目は健康被害。特に視力に対する影響は大丈夫なのか、3つめとしては、インターネット中毒という言葉に象徴されるようなタブレット端末習慣化中毒、こういったものが不安、というか、どのようになるのかという質問が中心となります。

われわれ教育委員会の回答としてはタブレットの破損・紛失に関しては、教育委員会のほうで、もちろん全て保証するという形になります。ただ、もちろん市で買ったものですので、取り扱いには丁寧に扱うという指導が前提となります。また、視力への影響なんですけど、タブレット型端末をずっと使うというような誤解があるので、例えば、授業の中でタブレット型端末を使う。これ、左の下の赤い部分が、だいたい使う時間ですけれども、反転授業による、家庭での持ち帰りの動画もだいたい7分程度です。繰り返し見たとしても、20分あれば終わってしまいます。また、授業中でも、タブレット使うという時間というのは5分、5分くらいが、だいたいこのくらいの程度の使用時間ですよ、と。これも、全ての授業の中で扱うものではないと、説明をすると、「あ、その程度ですか」と不安の払拭はできてんじゃないかなあ、と思いました。

タブレット端末の中毒、習慣化については、インターネットを家庭では接続できないような設定にする、と説明すると、こちらでも理解いただいと、認識してます。

以上です。

議長／3番 上田議員

上田議員／だいたい、概ね、私の認識と一致してるところなんですけど、今回の説明会を実施することで、保護者の不安の状況、そういうのはどういう感じなんですか。というのも私は御船が丘小学校のほうの、説明会に参加したんですけど、当然そこらへんの質問等が出ました。出た上で、いろんな説明を聞いた上で、保護者の方は、その参加されている方は、概ねもう、不安を払拭されたように感じたんですけど、そこらへんは説明会を実施する上で、どのようなかんじでしょうか。そこらへん、答弁をお願いします。

議長／代田教育監

代田教育監／もちろん1回の説明で、全ての不安が払拭されたとは思っていませんし、どうしても保護者会のほうに出席できない保護者の皆さんもいたと思いますので、くり返ししないといけないのが大前提だと思います。

ただ、初めての説明会ですので、その点でいうと、最初の不安はずいぶんとなくなったんじゃないかな、と思いますが、実際今後とも、いざ配布されてその後どうしていくか、っていう、例えば保護者への関わりとか、具体的な不安というのは4月以降もあると思いますので、そういったときには、くり返し保護者会の説明会を開催したいと思います。

議長／3番 上田議員

上田議員／昨日の、答弁の中でオープンデーだったですかね。そういった形で、保護者の参観等もやっていく、ということですので、そこらへんでまた状況はいろいろ認識されるんじゃないかな、と思います。いよいよ、すぐ、迫ってますので、準備はぬかりなくお願いしたいところだと思います。

今回ですね、機種や、アプリケーションについてということで、仕様がある程度決定をされた、ということでございます。これまで3度の選定委員会を実施されまして、プロポーサル方式による入札を経て、最終的に2月4日の臨時議会で可決成立した流れだと私は認識しておりますけれども、改めて来月整備されるタブレットの詳細の説明等をお願いしたいとお思います。

議長／代田教育監

代田教育監／上田議員が、今示していただいたとおりの方法でタブレット端末が決定しました。

実際にこれが、機種です。

おおざっぱな、機能としては、アンドロイド 4.22、ディスプレイサイズは7インチ、スト

レージは 16 ギガ、そして本カバーと本フィルターというものです。
機能としては、生徒があって、児童がここに記入したものが、先生とコミュニケーションできるというような機能をまずベースに入れて、まずこれを使って、先ほど申し上げています、一人ひとりと向き合えるような形でのアプリケーションにしています。
以上です。

議長／3 番 上田議員

上田議員／実は私、7 インチのディスプレイを見たのは初めてでして、けっこう細かな感じがしました。
これ、カバーは全員こんな、この黄色かカバーになるとですか？そういうわけにはならんですね。

／全員。

上田議員／全員これ。色も？

／はい。

上田議員／すごかですねえ。センスのよかとか悪かとかようけ分かりませんが、ものすごく派手で目立つし、無くしたりなんだりは少なかつかな、というふうに考え…気がします。

16 ギガということで、仕様のには、私は問題ないというふうに考えておりますのでね。
はい、ありがとうございます。

それで、今回 ICT 教育の反転授業を取り入れるということで、今現在使用するソフト、アプリは、先生と塾等で、連携しての準備というふうになっていますが、学校現場の負担というのは、どのように考えられているのか、を、答弁お願いしたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／学校現場への負担に関してですが、もちろん、反転授業用の動画を作るという意味で、先生方の負担は従来より増えていると思います。子どもたちのための新しい取り組みですので、ここの部分は負担を承知で頑張ってもらいたいなあと考えています。
ただ、これを全て先生方が作るというのは非常に大変だと思います。そこで、企業との連携を測りながら作る、というのが、今の武雄市のスタイルで、具体的には先生が、こういう動画を作って欲しいという依頼書をもとに企業が作っていく、という。その作った物に

対して、修正を入れていく、という形で、なるべく、先生の負担がないように仕組みとしては作っています。

その一方で、先生型への負担、タブレット端末を入れることによって、例えば小テスト、授業前、授業後に行った小テストなんかは、よく、職員室でずっと採点をする、という業務があるんですが、これは、タブレット端末を入れることによって、先生のこういった業務の削減というのはできているので、そういったところを普及していきたいなと、考えています。

議長／樋渡市長

樋渡市長／さらに加えて、先生と塾等の関係とあるんですけど、どうも、先生と企業だけでいそうながしますのですね。僕はもともと、当初の発想は、塾も一緒にできることはやると、いうので、例えば、土曜日の英語とか、放課後のクラスというのもやるつもりでいるので、是非教育委員会にお願いしたいのは、塾も一緒にやれるようにお願いしたいと思います。

議長／3 番 上田議員

上田議員／そうですね。今回タブレットを使用することによって、私もちょっと立場上、学校現場にちょくちょく出向くんですけど、気になるところが、ここなんですよね。タブレットを使うことによって報告書関係が、とにかく放課後の先生たちってそれに追われると、聞いてるとですよ。

だから、今回、反転授業のアプリ、ソフト等を検討しながら、是非このタブレットを使うことで、報告書義務の業務の簡素化だったり、そこらへんを学校の負担感を減らすという方法、なんか術がないのかなと思ひまして、そこらへんを是非ちょっとお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これね、タブレットを使っても、報告書を書かないといけないのは一緒なんですよ。だから報告書そのものを無くすのが1番いいんですよ。だってそうじゃないですか。だから、でも学校の先生はまじめなんですよ。必要以上に書くんだけれども、そもそもそれをやっぱり無くさないで、僕はだめだと思いますよ。だからこれも市の教育委員会にお願いなんですけども、報告はほとんどなしにすると。もう、任せた方がいいんですよ。それで、特段の何かがあった場合は必ず情報が入りますから。入る信頼関係を、学校現場と教育委員会で作ったらいいんですよ。だからここは、本当にそう思いますよ。

ここは簡素化じゃなくて、一旦全部ゼロベースにする、その上で、どうしても問題があった場合には、悪い話だけ入れてくれと、いうこと。うちも現にそうしているんですよ。う

ちの中は。

だから、事後報告は必要以上にやるな、と。その代わり、悪い情報だけ事前に入れてくれ、と言ったら、悪い情報だけがいっぱいやってきて、僕は鬱になりそうです。

議長／3番 上田議員

上田議員／そうなんです。私も保護者として、言わせていただければ、学校の先生は、子どもたちの人間形成の上で、できるかぎり子どもと関わって欲しいというのが願いにあるんですよね。ただ、残念ながら、放課後の職員室なんかは、結構報告書に追われるというのがあるんです。

是非、これが何とか簡素化できんかな、と思いましたが、前向きに答弁いただきましたので次にいきたいと思います。

次はですね、前回の議会でも使いました。ちょっと、A君、B君、C君、Aさん、Bさん、Cさん、こういう今のテストの点数をとっている子がいると仮定しての、反転授業を行うことによって、ということで、これまでの説明では、こういうふうに、みんながこう、変わっていく。むしろ、こっちのC君、Cさんのほうが伸びる、というような説明を聞きました。その際に、私は反転授業は、どうしても家に持ち帰って予習をするので、一生懸命する子はもっと伸びるやろう。しない子、まったく予習をしない子は、まったく変わらないだろうと言いました。ここの席で質問をしました。

ただ、その際の答弁としては、いいや違う、こっちです。こっちですよ、という答弁をいただきました。ただ私は転授業だけを捉えれば、こっちじゃなくて、こっちのケースも考えられるんじゃないかと思うんです。

ただ、答弁としては、いいやこっちですということだったので、どういうことなのかなと思ったところ。私も期待している効果の1番の中に、このシーラーニング(?)機能があります。これは、ちょっと見にくいですが、先生のタブレットの写真をちょっと撮らせてもらったぶんです。問題があって、答えを、例えば4択をした場合、このときは8人が解答している、という状態で正解が8人。ここはクリアしていると。この下は、問題ははっきり覚えていないが、正解が1番上なのに、2人が正解で、他の子はあの子は正解していないというところ。こういうデータが、瞬時に先生の手元に残っている、送られてくるといふことなんです。

これはどういうことかという、これまでの学習では、授業をまず受けます。授業の中に小テストということで、実施がされます。それを、授業終了後に職員室に戻って、先生方が丸付け、採点をすると思うんです。そこでもし、理解をちょっとしてなくて、ちょっとつまづいている子どもが仮にいたとした場合、翌日、結局放課後で採点しているので、このつまづいている子に対する対応は翌日の次、翌日以降の対応になるわけですね。

ただ、翌日の授業となると既に次の授業に進んでいるということで、結局、ここのつまづ

きが、いろんな対策が先生方も打っていただいているんですが、どうしても、翌日以降の対応になっていくということで、なかなか、厳しい状況だったのではないかと。

で、これを今回、シーラーニング機能を使うことによって、授業を受ける、で、小テストを実施、この小テストが結局タブレットを使っての小テスト。で、小テストを実施することで、教師のタブレットにそのまま瞬時に状況が把握します。となると、翌日もちこさずこの子はどこでつまづいているのかな、というのが、その時点でどっかつまづいている、というのがわかって、即座にその場で対応できる、だから、ICTの効果絶大というふうにしていますけど、今学校は、低学年は少人数学級か、***と選択をしますけど、だからこのCT(?)というのも効果が非常に出るんじゃないか、と。

だからこそ、さっきのCさんの学力が伸びるのかな、と。ちょっと私、そういう認識でいますけど、いかがでしょうか。

議長／代田教育監

代田教育監／授業の流れ自体はいいんですが、その反転授業を踏まえると、その翌日に残さない、つまづきを残さない、ということができていると思っています。つまり、反転授業の動画を見た後、必ず小テストをする仕組みになっています。ですので、授業を受ける前に、この子たちは、どのくらいのつまづき、問題点があるのか、全員わかっているのか、この子とこの子はわからないのか、というのを把握できるような形になっているということです。つまりこれ、先生用の端末で、授業前の状況を先生が把握している状況です、全員正解と、3名くらい間違った問題がある。当然名前もわかるし、感想(?)もあるということで、実際に、授業前に先生が生徒の知識状態を把握できる、授業中も上田議員からご指摘があったようにね、授業中でも小テストを行うことによって、同じ問題だったり、発展問題がどのくらい定着したのかなということも先生方瞬時にわかるということで、もし、わかっていなければ質問方法を変えてすべきだし、ほかの学習で、また翌日に残さないという体制ができるという意味で、こういった機能ならこういった指導法が実現できる、ということで考えています。

議長／3番 上田議員

上田議員／そうしたら結局、授業を受ける前に反転授業で予習して、その時点で、小テストをそこまで家庭学習に入っているということで、この流れですね。わかりました。それだったら効果がまたあるのかなと思っています。

そしたらですね、いよいよ反転授業、ITC教育がスタートするということで、タブレット関係の仕様が決定し、説明会等も実施しているということで残り数日程度しかないのかなと思いますが、現在準備状況でどうですかね。5月から実施予定とあったかと思いますが、

そこらへん、準備状況は実施できそうですか。そこらへんを。

議長／代田教育監

代田教育監／現在、来年度の前期、５～７月に使う算数と理科の反転学習の動画を制作しています。

スケジュール的には順調で、先生方も積極的に作って、企業さんのほうがぎりぎり頑張っている、という状況で、スケジュール通りいってですね。５月から、４月にタブレットに馴れて、５月から反転授業を導入できる予定です。

議長／３番 上田議員

上田議員／これは２月の臨時議会で紹介しましたが、保護者の中では期待されている感が伝わってくる。

ある人、引っ越してこられたお母さんがいて、今回のＩＣＴ授業、反転授業は、武雄市に引っ越してきて良かったと思えることのひとつだ、とおっしゃる方もいますし。ある方は、これが進めば、通信教育、家庭の通信学習にいろいろお金をかけていますけど、それがやめられるんじゃないかと思ってちょっと期待してます、って方もいらっしゃいます。

私も、反転教育、ＩＣＴ授業に期待をしているところですけど、個人的な示唆をひとつだけ言いたいと思いますけど。

今回の、このＩＣＴ教育、反転授業が効果を発揮をします。効果を発揮すると、武雄の子どもたちの学力が向上していくんじゃないかな。となると良い大学にいたり、いい企業に進んだりというのは期待をしちゃうのかなと。となるとですね、優秀な子どもたちが武雄に戻ってくるかな、と、武雄に残ってくれるのかなと、そういうのを心配してしまう。むしろそっちを心配せんといかんかなと、そこらへんについて考えをお聞かせいただきたいと思います。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／話にありましたように、ＩＣＴ教育の推進によりまして、どの子も一人ひとりの子どもたちが、たしかな学力を付けてくれることを期待しますし、同時に、きのうから話題になっているように、学力だけでなく、見る時間非常に短いんだという説明をいたしましたけれども、できるだけもちよって、出し合って、心の面も育てることを目指しております。

そういうなかで、学力の考え方もいろいろあるので、良い大学、いい企業、という方向に向くことばかりじゃなく、自分の学力、興味、特性を生かして、いろんな面で活躍するこ

とを期待します。そういう意味で、武雄の思いはしっかり、心に残って…断言はできませんが。そういうふうな思いでとりくんでいます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ僕も***ってると思うんですね。これダメと思いますよ。こんなことでしたら。これね、出すとね、今残ってる子たちとか、僕らが…頭の悪い人たちがね、いやいや、そうだと思いますよ。だから、こういうだからね…上田議員はそんなことはない僕は信じていますし、事実そうだと思うんですけども、これは偏見だと思います。

それよりも、僕らは、良い大学、いい企業に進むというのだけじゃなくてね、それもいいかもしれないですけど、何度も私も言っていますが、飯が食える、魅力的な大人を作れ、ということ。

しかも、正解の3つのうちの1つじゃなくて、私かもしれない。苦勞をしろと言い切る。自分で正解を作っていく、グローバルな…日本って生ぬるいんですよ。お隣の韓国・中国とかねアメリカもそうですが、われわれの次の世代がどうしていかなければいけないかというのは、本当の意味での弱肉強食なんです。

そこでしなやかにたくましく生き残っていくためには、小学校の公教育が絶対必要で、それで僕はやっていこうと思っている。

それが押し付けじゃいけないし、特に小学校は、僕は不登校でしたが楽しく学んでいくって。主体的に自立的に学んでいくっていう環境を整えるのが、我が教育委員会の仕事だと思うんです。それを僕は予算編成権をもっているので、全面的にバックアップするのが僕らの仕事なので、多くの方が御覧になっていますが、ぜひ御理解いただきたい。

議長／3番 上田議員

上田議員／うがった見方なんですよ。

ただICTがどういう効果をもたらすのか、私はそれをおろそかになると思うんですが、ふるさと武雄を愛する教育。タブレットを使わない教育しか受けてない私たちですので、見えない部分がある。だからこそ武雄を愛し、武雄が好きになるという教育をもっとして、いって、大事にしてほしいなと、いうところはうがったところだったんです。

それでは次行きたいと思います。

まちづくりについてであります。

まず、道路行政ですが、これは、小楠交差点。写真ですが、今回、話を伺ってるかたのなかに、こっちの川良方向から、川良だったり、竹内の方、若木だったり、北方の方がよく使ってると思うが、朝のラッシュでここを通過するのが時間がかかると、右折のレーンの信号がでないと。

通常の赤、黄色、青の信号になるのですがここの右折の矢印表示がないので、なかなかこれが右折ができないという話を伺ってます。

警察にも私も相談に行った、何度か、するとここは現実問題として、こっちは右折レーンがあるんですよ。

こっち側がですね直進の、右折して、ここに分離の線がないということで、これが今の段階では出来ないと話を伺いました。

これがタケオス(?)さんのほうで、ここの道路の拡幅を考えただけであれば可能になるんじゃないかというような話をちらっと伺ったんですけども、そこらへんの、今後の計画予定、その信号の解消が可能かどうか、その辺を合わせて答お願いしたいと思います。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／交差点の部分的な、改良をしまして、今の状態での状況での改良は難しいので信号処理について関係機関と協議しましたが、南北の路線を優先しているということも共有したのですが今度は、東西、温泉道路…温泉の駅

のほうから来る路線も今、現状も、混雑してるということで、さらに時間差をつけることで、渋滞を予想されるということで、現状の時間配分が一番最良と判断をしている。

交差点改良については状況によりますが、平成 27 年中には、なんとか改良を行いたいと考えているところです。

議長／3 番 上田議員

上田議員／交差点の改良、27 年度中に。信号はなかなか厳しいと。

こっちの、交通もありますけど、こっちの東西の交通もあるということですね。ただ、警察とご相談しましたが、今の信号機能もいろいろあるということで。

時間帯だけを限って、朝の通勤ラッシュのところが、とにかくすごい状況らしいので、その時間だけでも操作がしようと思えば、警察はできるという話を聞いたがそこらへんの協議はしましたか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／朝の時間、夕方の時間だけの、時差式については協議はしてません。

議長／3 番 上田議員

上田議員／その、いろいろアドバイスいただいたのですが、そんなことも可能ということ

でしたので、改めて協議をしていただければと思ってます。

改良、土地の買収、そこらへんもどうなるんですか。

歩道がなんとなく歩道みたいな形になっているんですけども、ここらへんはもう信号の付け替えもあるかと思いますがスペース的には確保ある程度できてる気がしてますがそこらへんいかがですか。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／部分的に、余地がありますけど、一部だけ、拡張してそこだけをレーンを作るというのが、安全性に問題がでるとのことです。今の状態になっているということです。ある程度、一定の延長ができたときに、合わせてするというのが、安全性を考慮し今の状態になっていると。

議長／3番 上田議員

上田議員／この先の部分もということですね。

それでは続いて、企業誘致に入ります。

まず若木の工業団地について。これは先の議会で質問しましたが、今回言ってた、九州西濃運輸さん、ここに入っていただいたということで、若木の工業団地は完売したという話でございます。

北方インター工業団地については、総面積のうちの、この部分、時計でいうと10時11時ぐらいのところになりますけども、3ヘクタールが、進出決定という話を伺っています。この企業誘致はですね、8年前、樋渡市長が当選される前にマニフェストがだされ、それを見て私が最も期待したのが、企業誘致。市民も多数いたが、この企業誘致。

これまでの武雄、最近いろんな嬉しいニュースを、いただけてますが企業誘致の実績を紹介していただければ、非常にいいなと思うのがいかな状況でしょうか。

議長／北川営業部長理事

北川営業部長理事／樋渡市政になってからの、企業誘致の実績ですがモニタごらんいただきたい。

これは2期8年の企業誘致の実績を企業立地課で協定を結んだものも加えて病院、CCCまでを整理をしたところです。これについて、見方としては青が1期目、平成18年から平成22年まで。それから赤が22年から現在までということでございます。全件合わせて10件ほどございます。

特に新病院につきましては1期目と2期目ということで、現在420名、1期目で260名、

2期目で160名ということで現在420名がご利用されているというふうなことでございます。

現在近隣の市と武雄市の比較をしています、武雄市が10件、近隣についてはご覧の通りです。

非常に武雄市が突出して全体で、約1050名、100名ぐらいの雇用が創出できたと考えられます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、樋渡市政になってからというのではなく、職員の努力ですね。

青のときがただちに景気が悪くなったので伸びなかった。そのときに、前田企画営業部長と相談して、担当の部長級のセクション置く必要があるだろうということとで。

一番最初に頑張ったのは、なくなった伊藤元康です。その次に、今の北川理事を中心として、チガさん、あるいは議員さんのがんばりで、僕はここまできたというふうに思っているんですね。

担当のセクションが強烈に動いた。特に北方の工業団地は、ぞくぞく入るが、引退される黒岩議員さん、区長さんをふくめ地元の皆さんたちの、熱い暖かい、熱意で、あれだけの規模の面積があつという間にできたというのが大きい。

先ほどいいましたが、議会がものすごく好意的だった。ですので、色んな言えること、言えない話がありますが、議会には感謝をしたいと思います。

さっきも話をしましたが、問い合わせけっこうあるんです。武雄がブランドになっているということもあるんですけれども、ただ、北方の工業団地が大規模、工業団地が、柔軟にしてもいいのかな。あまりにも小規模なのが課題かもしれませんので、もう少し用件を下げることによって、県ともっと調整をしまして、もっと引き込む努力、魅力あるところに。そして、最後にしますが、県が頑張った。古川知事をはじめ、県の担当のセクションの人が、ここまで肩入れしていいのかということで、本当に一生懸命やっていただいたこと、そして皆さんの努力と熱意でここまできたということで、感謝したいと思っています。

議長／3番 上田議員

上田議員／そうなんですよね、チームとしての、企業誘致が功を奏しているという考えが一番正しいのかなと考えています。現在の企業立地課の皆さんもかなり一生懸命企業誘致に企業立地課の皆さんも、邁進していますし、その前の企業立地の職員の方、それにとまなうチームとしての企業誘致が実現しているのが今の武雄なのかなと。実績をまとめみると、1000人を超える企業、雇用がうまれているのは、本当に嬉しいことですね。工業団地、北方のほうですが、答弁出ておりました。これが、取り付け道路が最終的にどうなるのか

はあれですが、図は簡単にかいたものですが。前回の12月議会の方で、企業誘致の***率として、今回コスモス薬品さんが入ったことによって、企業誘致の呼び水として、今後の展望はどうだと質問したところ、そのときの答弁としては、ある企業と調整中という答弁でした。これから3カ月、刻一刻、いろんな情報がありますが、ここは今現在どのような状況なのか、話せる程度、制限あると思うが、こちらのほうも答弁お願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／北方工業団地に限っていうと、大きな所と調整しています。公表できる段階ではないが。夏頃には、いい話ができるかと思います。決まっている、コンプリートした話をする、株式会社タケックスさんが、昨年4月武雄工業団地に事業拡張で、ワカキの武雄工業団地に、事業進出、操業開始をされております。このたび、同社の跡地、タケックスさんの跡地、アサヒマチ中野ですが、ここで今、東にですが、サニックスさん、まぎらわしんですが、武雄工業団地で操業中のサニックスさんが事業拡張されて、その跡地に新規事業所を設立される運びとなりました。タケックスさんと、サニックスさんで、わかりにくいところがあるが、どちらもいい企業。整理すると、タケックスさんの跡地に、サニックスさんが、若木は残しておいて、武雄のタケックスさんの跡地でも行われる見込み。進出協定調印式をあした6日に行うこととしました。このように本当に、あそこ、懸案になっていた、どうなるのかなということで。タケックスさんの跡地どうなるか、心配していたが、タケックスさんのご厚意と、お越し頂くということで、ワカキは残った上で拡張すると、たぶん、こういうパターンが増えてくる。よそからお越し頂くのもいいが、いまある企業さんが拡張して場所が足りなくなったとき、武雄市内で事業拡張として、拡張操業すると、というパターンも今後の増えていくとおもいますので、これについても応援していきたいと思っております。これも、北川理事、チバさん、古田さん、イケダさん、本当に頑張ってくれましたので、あと、ここは親分社会なんです。北川親分を中心としてOBの人とか、うまく人を使って、本当によく引き込んできたなど、ある意味北川チームのやってきてくれたんだなと思っています。今後も明るいニュースが出てくるので、早くお知らせできるように、誠心誠意、私は賞味期限切れですが、改変される議会を中心にやってほしいです。

議長／3番 上田議員

上田議員／タケックス、サニックス、ありがたい話。そうすると、企業誘致については、本当に先ほどの話も含めて、結果を出していただいています。今後任期満了が間近にせまっていますが、今のところ、議長選に関するマニフェストを、何も見たこともないですし、ただ、これまでも議会マニフェストが出されていたのではないかと、思っていますが、3度

目は、その辺どうなんでしょうか。出されるつもりか、そういうのを、答弁お願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／マニフェストは記者室からも求められているので、正式な公表はします。いつでしたっけ。明後日。明後日、行おうと思う。今のところ書き込もうと思っているは、消費税が4月から8%になりますよね、生活に直撃しますので我々としてはできることは、市民の負担、痛み、苦しみを和らげる方向で、水道料金の引き下げは書きたい、そのパーセンテージについては、最終調整中、5%は下げたいと思っています。ですので、そういったことを含めて、それが目玉になります。かつ、みなさんたちが、武雄は住みたい田舎ランキングで全国第2位になっています。お越しいただいた方々からがっかりされることがあります。どこに言っているのかいいのかわからないだとか、がっかりされたことは、古民家だったり、お住まいだったりしますので、これを一元的に、窓口の課を作って、「お住もう課」っていうのを作ろうかと思っている。名前が、やわらかみとか、移住の1つの柱にしたい。あと、いくつかありますが、最終調整をされていて、あさって会見で間に合わせて、公表したいと考えている。マニフェストという言葉は好きじゃないですが、こういう形で出したいと思っています。図書館も、キッズライブラリも是非したいと思っています。あまり話してもネタがなくなるのでここで終わります。

議長／3番 上田議員

上田議員／出すということですので、その政策でぜひ闘って欲しいですが、企業誘致の実績が高く評価されると思いますが、ただ、雇用の喪失と、ぜひ学校誘致に期待していますが、この辺の意気込みを最後にお伺いしたいです。

議長／樋渡市長

樋渡市長／公約発表の場じゃないので、夢を語りたいんですが、私は代田教育監にお越しいただいて、教育長に顔つきが似てきたと思いますが、強力なタッグで小学校の教育をよそのお子さんたち、お母さんたちからお越しいただくような、そんな教育にしたい。全面的なバックアップをしていきたい。次は、中学校ですよね。小学校と同じ内容で中学校で受けたい。そのときに、今ある、川登中とか、北中、北方中とか、山内中の中学校のカリキュラムが変わってくる。それは、我々が変えたのではなく、保護者の皆さん、子どもたちが、小学校の授業でうけた教育の中で同じ内容で中学校で受けたいとなるとその時に、反転授業を中学校でもやりたい。そうすると、中学校の卒業生どうなるかというところ、近隣の高校になる。県立高校か市立高校か、私立、県外の私立高校になるのかわかりませんが。

土俵が整ってから私はそれをやりたいので、物理的に次の任期が4年あるので、達成できるのかというと、疑問ですが、具体的な方向性が出せる時期にきていると思うので、それに向けて、上田議員さんとチャレンジしていきたい。急がば回れという言葉が大好きです。スピードは得意じゃないので、じんわりやっていきたいです。

議長／3番 上田議員

上田議員／急がば回れ、急ぎましょう、なんとかやりましょう。以上で私の質問を終わります。

議長／以上で上田議員の質問を終了させていただきます。